

# 第 3 章



計画の  
基本的考え方

# 1. 計画の基本理念

区民、地域の関係団体・機関、区が力をあわせて本計画を推進する上での基本となる考え方として、次の3点の基本理念を掲げます。

## ◆ 基本理念1 個人の尊厳を守る ◆

すべての区民が、住み慣れた地域で、その人らしい生き方をまっとうすることができる地域社会をつくれます。

## ◆ 基本理念2 共に生きる地域をつくる ◆

すべての区民が、地域から疎外・差別されることなく、地域の一員として差異や多様性を認めあいながら、共に生き、支えあう地域社会をつくれます。

## ◆ 基本理念3 協治（ガバナンス）を実行する ◆

すべての区民が、主体的に地域に参画し、活躍するとともに、区民、地域の関係団体・機関、区が、身近な地域の課題の解決に向け、共に考え行動していく地域社会をつくれます。

## 2. 計画の基本目標

本計画は、基本理念のもと、次の4つの基本目標に基づき、区民、地域の関係団体・機関、区の協治（ガバナンス）による取り組みを推進します。

### 1 区民が安心して暮らせる福祉のまちをつくる

区民の誰もが地域から疎外・差別されることなく、互いに認めあいながら地域の中で共生していこうという心の育成、誰もが自由に移動できる地域環境づくり、要援護者の防犯・防災対策など、区民が安心して暮らせる福祉のまちづくりを推進します。

### 2 区民が安心して利用できる福祉サービスを提供する

利用者の立場に立った相談支援体制や自分で福祉サービスを選択・決定して利用することが難しい人の権利を守るしくみの整備・充実、福祉サービスの量と質の確保、生活に困難を抱えている人の自立支援など、区民が安心して利用できる福祉サービスを提供します。

### 3 区民の積極的な地域活動を進める

地域福祉に関する施策や活動についての情報の周知や、地域の課題の解決にむけて行動する力を育む福祉教育、地域福祉の担い手の育成、地域活動の活性化等を通じて、地域の一員としての区民の積極的な地域活動への参加を推進します。

### 4 区民が地域で支えあい・助けあうしくみを確立する

区民が地域で支えあい・助けあうしくみの確立にむけて、日頃から地域のつながりを育むとともに、地域の見守りにかかわる区民、団体、関係機関のネットワーク化を進め、地域内のニーズや課題を把握・共有し、その解決にむけて行動するための協働の場（プラットフォーム）づくりを推進します。

### 3. 計画の基本的視点～プラットフォームによる地域福祉～

本計画は、基本目標を推進するにあたって、「プラットフォームによる地域福祉」を基本的な視点とします。

#### 前期計画におけるプラットフォームづくり

前期計画では、「地域福祉プラットフォームづくり」を優先的取り組みの一つとして取り組んだ結果、高齢者みまもり相談室、小地域福祉活動等において、プラットフォームが生まれてきました。一方で、常設の相談場所（施設）が必要であるといった意見もあり、求められるプラットフォームが形成され成果をあげてきたとまではいえない状況です。

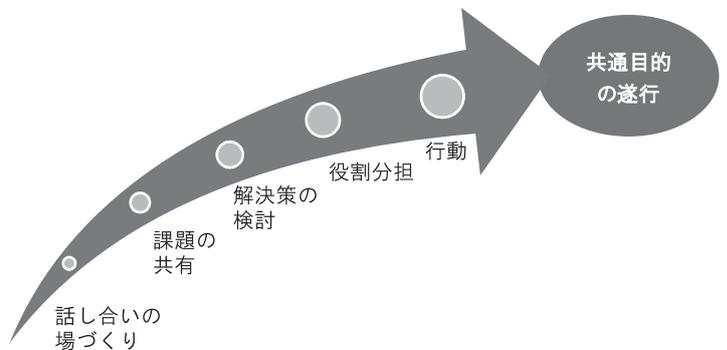
#### 求められるプラットフォームとは

本計画で考えるプラットフォームでは、「課題解決」が主たる目的となり、関係者が「自発的に」集まり、「平等な立場」で役割分担し、行動していきます。また、「組織をつくり継続すること」よりも、「ある共通の目的の遂行を最優先すること」が最大の特徴です。このため、関係者、関係機関が自由に参加し、目的が達成されれば解散することもあります。

【プラットフォームの形成】



【プラットフォームによる行動プロセス】

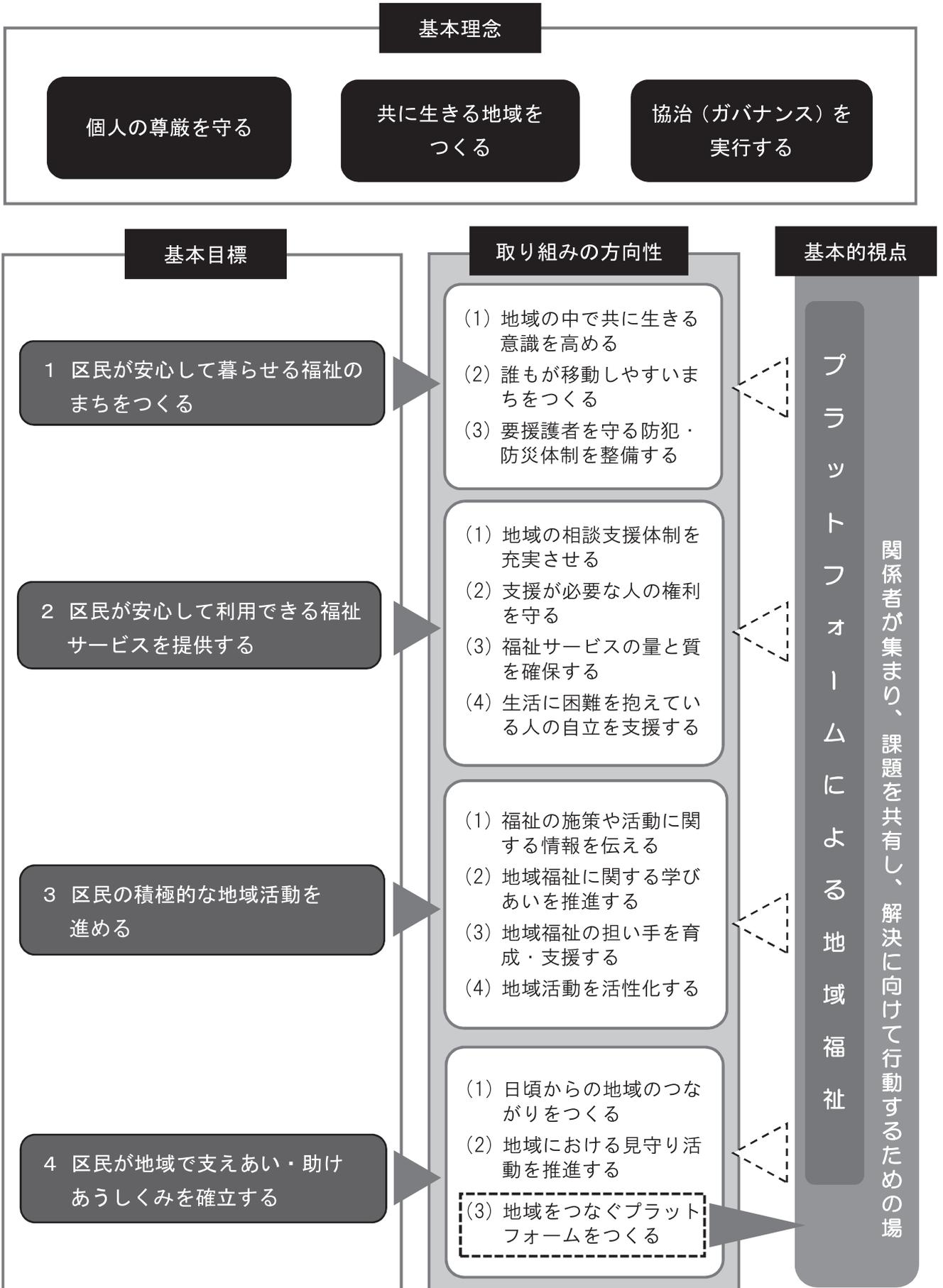


#### プラットフォームと各取り組みとの関係

本計画の取り組み内容を進めていくにあたって、事業や活動にプラットフォームという視点加わることで、今までつながっていなかった団体とつながりができ、地域の課題をたくさんの人と共有できるということが期待されます。また、お互いの取り組みや考え方を理解しあうことで、取り組みの効率化や相乗効果が進んでいくと考えられます。

また、基本目標4「区民が地域で支えあい・助けあうしくみを確立する」においては、「地域をつなぐプラットフォームをつくる」という取り組みの方向性を掲げ、プラットフォームによる地域福祉の好循環を生みだすことを目指しています。

## 4. 取り組みの体系図



### 墨田区におけるプラットフォーム

プラットフォームは特定の生活課題に関係する多様なグループが集まる共通の場であり、新たなネットワークを形成し課題解決を図ろうとする試みです。

プラットフォームでは、人（人脈）、組織、情報、知恵、ノウハウなどが相互に行き交うことが期待されます。グループ間の相互作用とともに、あらたな外部ネットワークへの広がりが生じ、様々な考え方が響きあい、新しい価値観を生み出す場となるのです。

ここでいう「場」は、必ずしも物理的な場を意味するものではありません。インターネット上における場でもかまいません。要は、課題解決に関連した魅力的なメンバーの参加を得ることが大切であり、それによりプラットフォームは魅力的なものになるということです。

### プラットフォームにおける活動プロセス

プラットフォームづくりは、まず、生活課題に関わるグループを集めることから始まります。次に、参加した住民やグループの交流を通じて新しい価値観を創造し、そして、コミュニティ全体にプラットフォームの効果を広げて行きます。また、複数のプラットフォームのニーズが結びついて、相互作用が生まれ、より大きなプラットフォームが構築されるということも考えられます。

プラットフォームの活動の中では、相互交流を常に刺激すること、活動のルールづくりを図ること、活動の質を高めることが大切な要素となります。その前提条件としては、構成する多様な主体が自らの利益だけを求めるのではなく、広く地域社会全体の福祉のあり方を考える「新しい公共性」を認識していること、利害対立を超え相互の立場の違いを認めあい、合意形成を図る姿勢を持っていることが挙げられます。

プラットフォームにおける相互交流や信頼関係の構築の過程でそれぞれの主体の自立性と平等性が尊重され、理念・目標の共有化と各主体間の役割分担・協力関係・社会的責任の明確化が進むこととなります。

### 墨田区地域福祉計画におけるプラットフォームの位置づけ

墨田区地域福祉計画の基本理念は、①個人の尊厳を守る、②共に生きる地域をつくる、③協治（ガバナンス）を実行するという3つです。また、基本的視点として「プラットフォームによる地域福祉」を掲げています。

ここでいうプラットフォームとは、地域福祉を支える幅広い住民や多様な活動団体・組織が参加し、地域課題を共有し、解決策を検討し、墨田区の福祉コミュニティづくりをすすめる場（土台、基盤、舞台）のことであり、いわば「地域住民の心と活動をつなぐプラットフォーム」を指しています。

そして、プラットフォームをつながりの基盤として、③協治（ガバナンス）が実行され、それが②共に生きる地域をつくるとともに、①個人の尊厳を守ることにつながります。

### プラットフォームが果たす役割

プラットフォームは、取り上げる課題に合わせて小地域から墨田区全体の地域レベルにおいて圏域が設定されるとともに、課題の専門性や特殊性に合わせて参加メンバーも異なるものとなります。プラットフォームにより、多様な主体が参加・交流・行動する場が確保され、「情報共有の場」、「課題共有の場」「合意形成と解決方法の共有の場」「社会資源の共有の場」「地域福祉活動の人材育成の場」といった役割を果たしていくこととなります。

### プラットフォームの具体例と類型

おまつりやふれあいサロンなどの住民の交流の場は、住民の主体的な関わりのなかで、地域の潜在化した生活問題を把握することができる「問題発見プラットフォーム」と言えます。

また、小地域福祉活動やボランティア・NPOなどの連絡会は、住民による支援活動の相互連携や連絡調整のための「連携支援プラットフォーム」としての役割を持ちます。

さらに、見守りネットワーク会議や要保護児童対策地域協議会などは、区や社会福祉協議会、民生委員などが情報と目標を共有し、解決策の実行にあたるための「問題解決プラットフォーム」と位置づけられます。

これら3つのプラットフォームには、社会福祉協議会や民生委員・児童委員が共通して参加することとなり、プラットフォーム間の課題の受け渡しや情報交換を助ける役割を持ちます。